

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をスタッフルームに掲示している。 理念を元に、利用者様が穏やかに過ごせるよう努めている。	母体である「民医連」の理念及び法人である「共立福祉会」の理念を基盤として「グループホームさくら」独自の理念と、その理念を基にした指針が作成されている。スタッフルームの見やすい場所に掲示されており、月1回開催されるスタッフ会議では、職員全員で理念と指針の唱和を行い、日々のケアサービスに反映出来るように取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方には常に挨拶をし、苦情にもすぐ対応している。 ボランティアの方々にきていただいているが、利用者様の介護度がまちまちなので全員ができるレクに限りがある。	地域の町会に加入し、運営推進会議には必ず町会長、民生委員も参加している。雪かきの際は、施設職員が近隣の雪かきも率先して行うなど、交流を心がけている。定期で傾聴ボランティアが2週間に1回、その他、不定期でハーモニカ演奏等のボランティアが訪問している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や外出時に、話し方や関わり方をみていただくことはできるが、地域貢献というほど活かしきれていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様、職員、行事等報告し、会議内での意見はスタッフ会議等で伝えられ、サービスの質の向上に活かすよう努力している。	運営推進会議には、利用者代表、利用者家族代表、町内会長、民生委員、広域連合介護保険課、系列の認知症対応型通所介護職員などが参加している。会議内で意見については、施設内で月1回開催されているスタッフ会議などで話し合われ、サービスの質の向上に活かすよう取り組みされている。	更に必要に応じて警察、消防署、消防団等の幅広い立場の参加者を招き、施設のハード・ソフト面のことを知ってもらい地域との関係性を深めると共に、様々な意見を運営に取り入れてサービスの質向上に繋げていかれる期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主は運営推進会議だが、利用者様や事業所の必要に応じて情報交換している。	運営推進会議に広域連合介護保険課の職員が参加し、事業所の実情、ケアサービスの内容等が共有されている。また村の介護保険担当者とも、課題等についてその都度連絡を行い、必要に応じて話し合いが行われ連携が図られている。	

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、理解し、行わないよう努力してはいるが、人手不足等は利用者様の安全を考えて（急坂、降雪時、炎天下等）やむを得ず玄関を施錠する場合もある。	身体拘束については、身体拘束防止委員会があり定期で会議が開催されている。また施設内で身体拘束防止に向けた研修が行われており、職員が実際にミトンを着けたり、車椅子から降りられないようにY字ベルトで繋がれるといったことを実際に体験し、身体拘束が利用者の心身に如何にダメージを与えるかについて考える体験型の研修も実施されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で、身体拘束防止委員会を設けている。虐待を見逃ごすことのないよう利用者様、職員に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象の利用者様が今までいなかったもので、あまり学んではない。必要に応じて、研修会があれば参加し、職員に伝達したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時は、口頭又は書面にて説明、通知し、必要時には同意書ももらい、理解納得していただくよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族の意見は、来所時や個別面談時、外部評価等で受け、スタッフ会議の中で話し合い反映させている。	玄関の下駄箱の横に意見箱が設置され、自由に意見が表せるようになっている。利用者との日頃の関わりの中で、職員は利用者の意見や想いの把握に努め、支援に反映できるように取り組んでいる。また年2回、全家族が参加する家族会では個別面談を実施し、家族が意見を表せる機会を設け、利用者の支援や施設の運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、職員面接を行っている。出た提案はスタッフ会議で共有し、話し合っ最善策を考えたりしている。ただ、全てにおいて反映できるわけではない。	月1回のスタッフ会議で職員に意見や提案を聞く機会を設けている。また日頃よりフロアに「気づきノート」を常備し、職員がいつでも気軽に意見を表せる機会を設けている。そこで提案された意見についても、スタッフ会議で話し合いが行われている。年2回、職員との個別面接も実施されており、意見や提案を聞く機会としている。	

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望を受け入れて家庭環境も考えながらできるだけ働きやすい体制を取ってくれている。が、人手不足はなかなか解消しない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの把握はしているし、様々な研修の情報もあるが、人手不足で研修を受ける機会がなかなかできない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流できるよう、他施設の見学や研修などで機会を作ろうとしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様とゆっくり関わってしっかり話を聞くよう努めている。利用者様から困ったことや要望が出たら、スタッフ会議等で話し合い最善策を見つけようとしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や来所時、ご家族様と積極的に話をしている。困っていることや不安なことが解消されるよう、スタッフ会議等で最善策を見つけようとしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の在宅、他施設のケアマネ、介護職員等からの情報をいただき、本人家族の要望に添った対応ができるよう努めている。		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に会話したり歌を歌ったり、洗濯物を畳んでいただいたり、食事の盛り付けや食器洗い等、その利用者様の身体状況に応じてできることを手伝ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所されたご家族に利用者様の日々の様子を伝え、ご家族の意向も聞き入れながらサービスに反映させている。 隔月で新聞を発行し、ご利用者様の様子をご家族にお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の希望があれば、できる範囲で訪問したり、してもらおう等するが、実際に行っても利用者様が混乱してしまうことが多い。	利用者の希望により馴染みの神社や美容室、お墓参りに行くなど、関係継続の取組を心がけている。また年間で外食等の外出行事を多く企画しており、その際車窓から懐かしい、慣れ親しんだ風景を楽しんでもらえるようドライブするなど取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべくお互いの意見を聞き、楽しく穏やかに過ごせるよう対応しているが、認知レベルの差が大きくなってくると、なかなか難しい。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を移動された利用者様に面会に行ったりして情報を伝えあったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示できる利用者様からは意向を聞き取り、困難な場合はご家族様やその前の施設に聞いたりして、意向の実現に努めている。	日頃の利用者との会話において、個人個人の想いの把握に努めると共に、意思表示が困難な場合については、家族や以前入居していた施設などにも聞き取りを行い、思いや意向の把握に努めている。またケアプラン作成時においても、改めてケアマネジャーがアセスメントシートを用いながら個人個人の思いや意見等の把握に努めている。	

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話の中で、どのように過ごしてきたかを聞き取ったり、利用してきたサービスの施設から情報を聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	既往症や体調、排泄、食事等状態は皆違うので、日々の見守りの中から有する力の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1回の割合で作成している。利用者様やご家族様の要望を聞き、かつ、スタッフ会議での意見も反映しつつ行っている。	半年に1回ケアプランが見直され作成されている。その際、家族からの意見、要望を確認すると共に、全職員が出席するスタッフ会議でよく検討が行われチームで介護計画が作成されている。心身状態に変化が生じた際も、毎月開催されるスタッフ会議で話し合いを行い、実情に即した支援が出来るように取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人ひとりの介護記録、介護日誌、排泄等記録用紙に気づいたことを記録している。仕事に入る前は必ず職員は目を通すようにしている。情報の共有とともに介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様のご要望に応じてできる限り対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々に訪問していただいたり、外食ツアーに出掛けたりお弁当を頼んだりして地域資源に触れられるよう努めている。		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の希望に応じている。体調の変化等あれば書面により細かく伝えている。	利用者、ご家族が希望するかかりつけ医での受診が行われている。現在9名中7名が協力医での受診となっている。協力医以外に受診する際は、家族対応となっている。受診時には、施設より医療機関に対して必要な情報提供がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調の変化があれば24時間体制で診療所に相談、往診を依頼できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院時は看護師対応で確実に情報を交換している。カンファレンスに同席し、入院中の様子や退院後の対応も聞いている。ご家族様との連絡も密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて早めにご家族様に状況説明し、希望があれば看取りも検討する。(医療行為の必要がない場合に限る)	入所時に看取りに関する説明を行い、希望者については、体調の低下に伴い、早期から話し合いが行われている。「看取りケア指針」「看取り同意書」が作成されており、ケアマネジャーと医師を中心としてチームで支援に取り組まれている。この5年間で5名程の看取りを実際に行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全員が救命講習を受けているが、いざとなったときに冷静に判断、実践できるかという不安は残る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接の福祉施設と協定を結んでいる。運営推進会議でも地域の方に災害時の協力を依頼している。職員は夜間想定避難訓練を行い、行動を確認している。	消防署の協力のもと昼夜想定防災訓練が年2回実施されている。隣接する別法人の高齢者施設との間で防災協定が結ばれており、有事の際の協力体制が構築されている。自施設の倉庫に食品、水等が備蓄されている。	備蓄については最低3日分を目安にして更に充実されること、また消防団をはじめとした地域の方との協力関係が進んでいけることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を人生の先輩として尊重し、常に気を付けている。が、時に友達言葉になってしまったり、きつく言ってしまうことがある。	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねる対応になっていないか、管理者が中心となり常に日常的な確認に努めており、管理者が課題と感じた際には、速やかに打ち合わせの対応を取るなどの取組がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いや希望を表したりできるよう、分かりやすく促すような声かけをするよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースで希望に沿うのが理想だが、職員側の都合を優先させてしまうことが多い。人手不足もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の枚数にも限りがあり、十分な支援を行っていない利用者様もいる。「おしゃれの日」を企画し、メイク、マニキュアをしたこともあった。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、食べたい物を聞き提供している。普段もメニューを考えてもらい調理することが多い。準備や片付けは、その利用者様のことと一緒にやっている。	利用者とのに日常的な会話の中で食べたいものを聞き、メニューに取り入れる等されている。食事の盛り付け等の準備、食器の後片付け等を利用者が職員と一緒に取り組んでいる姿を確認した。野菜を多く使ったメニューが、利用者にも好評であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの嚥下や咀嚼状態により、食事形態、量、トロミの工夫をしている。栄養バランス、水分量は配慮して提供するが、利用者様により好みに差があるので難しい。		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様の力に応じて自身、または介助で行っているが、時々利用者様の拒否がありできない時もある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や利用者様のタイミングでトイレ誘導をしている。利用者様の身体状況もあり、排泄の自立にむけた支援となっているとは言い難い。	一人ひとりの利用者のタイミングでトイレ誘導できるように、利用者のご様子の確認や排泄表の記録などを活用し、自立に向けた取り組みがなされていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく水分を多く摂っていただいたり、野菜を多く使って調理に工夫している。また、服薬により調整している利用者様もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	湯船にゆっくり入りたい利用者様には希望に沿えるように努めている。入浴拒否の利用者様もいるので無理には勧めないが、清潔保持の観点から職員都合で決めてしまう事もある。	週2回の入浴が提供されている。入浴日とおおよその時間帯は決まっているが、気分の乗らない方などへは無理強いはせず、柔軟に対応されている。利用者が楽しんで入浴できるように、ゆず湯など季節を感じて頂ける対応も取られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的にシーツ交換を行っている。(失禁等の場合は必ず) 利用者様の体調や心身の状態、生活習慣に即した状況で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は2人で確認し行っている。使用している薬の一覧をファイルし、スタッフルームに常備している。		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の力に即して、食器洗い、片付け、洗濯物たたみ等できることを見つけてお手伝いしていただいている。 散歩、ドライブ、買物と一緒にいき、気分転換できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	人手不足でその日の希望で行くことは大変難しい。が、外食ツアー、博物館見学等、行事を企画し戸外に出られるよう努めている。 ご家族様のご協力もあり、外出される利用者様もいる。	利用者の希望を取り入れた外食ツアー等の外出行事が好評であった。気候の良い時は、頻りに近隣の散歩等をされている。また自宅に一時的に戻りたい等の希望の際は、家族の協力を得ながら外出の支援がされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	利用者様の不安や希望で、手元に置きたい場合は置いている。 入所時にご家族様とお金の話をし、利用者様の心身状況に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様のご希望があれば、対応している。 届いた手紙は、ご本人にその場でお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古く、狭い建物のため、冬は大変寒い。温度管理にはかなり気を配っている。 トイレにおいては気がついた時に換気、消臭している。	食堂、フロアと広さはないが、日当たりが良く、また窓も大きいためとても明るく、居心地の良い空間となっている。見晴らしが素晴らしく、窓外には諏訪湖が一望できるため、利用者自身も自慢げにご案内して下さっていた。冬場の寒さが厳しいとのことだったが、今年度はフロアの窓をペアガラスに変更する予定との話しであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれる場所が作れない。居室とホールで自由に過ごしていただいている。 こもりっきりにならないように職員が声かけしている。	ホールが狭く、独りになれる場所が作れない。居室とホールで自由に過ごしていただいている。 こもりつきりにならないように職員が声かけしている。		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の使い慣れたものを持ち込めるようにしている。家具物品の移動の希望があればできる範囲で行っている。	基本的に利用者の使い慣れたものが持ち込まれ、居心地の良い空間づくりに配慮されている。心身の状況により対応が難しい方についても、出来る範囲で工夫しながら居室づくりをされていることが確認できた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアには名前を、トイレ、風呂も掲示している。 2階建てのため、利用者様の身体状況が重度化すると階段が危険になる。その場合はできる限りの支援を行っている。(見守り、付添、居室移動等)		